

賀詞交歓会挨拶

新年おめでとうございます。

令和6年「辰年」がスタートしました。それから十数時間後、能登半島大震災、翌日羽田C滑走路にて、日航機と海上保安庁の救援物質運搬航空機との接触事故が発生し、数名の方が殉職されました。これ等の災害にて尊い命を落とされました方々に、哀悼の誠を捧げ、只今黙祷を行わせて頂きました。

また、被災されました方々には、1月5日に開設されました当協会の災害義捐金口座に、会員各位のご協力を是非共お願い申し上げます。因みに、29年前の淡路、阪神大震災より今日に至るまで、当協会は全てにおいて、会員の皆様に寄り添ったご支援を重ねて参りました。今回も、石川県、富山県、新潟県各県本部長にヒヤリングを行い、会員の被害状況の確認と報告をお願いしております。私達は、出来る事から、支援の輪を大きくしていこうでは有りませんか。何卒宜しくご協力の程をお願い致します。

さて、当協会は会員増強に全力を挙げております。秋山前理事長が令和8年度までに、4万社を目指すと公言しましたが、中村理事長もその目標に邁進しております。少子高齢化社会の到来で、会員数の減少が想定できますが、私達の協会は、会員の会費にて健全なる会務運営に努めて行かなければ成りません。それが現時点での、私達の責務です。その為には、全国で4万社の確保が大変な重みをもって居る事に、ご理解を頂きたいと思えます。会員各位の新規入会者のご斡旋を、何卒宜しくお願い申し上げます。

話は変わりますが、昨年度は、当県本部に於いて、「全国不動産会議」を開催する事が出来ました。本来ですと、当県本部の20周年事業を開催しなければならない年でも有りましたが、全国の会員が当県に集い、当県の魅力を満喫して頂けました事が、何よりの御祝であると思っております。栃木県知事のお祝いの言葉、並びに宇都宮市長の記念講演には、各県本部より賞賛のお声を頂き、開催県としての責務を全うした感で、嬉しく思いました。この席上にて、栃木県民であり、宇都宮市民の一人として、感謝申し上げます。今年は佐賀県での開催となりますので、今から楽しみにしております。また此の事業が終了しますと、2025年には日本国際博覧会(大阪・関西万博)が開催され、「大阪パビリオン」の出店参加社として選出されました事業が待ち受けております。未来への夢を形取り、邁進して参りますので、会員の皆様、更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に成りますが、会員の皆様には、全日に入会して良かったと思える協会運営を、此れからも、更に進めて参りますので、何卒ご期待下さいます様、宜しくお願い申し上げます。

本日まで参集頂きましたご来賓の方々、並びに会員各位の、ご繁栄、ご隆盛をご祈念申し上げご挨拶と致します。有難うございました。

2024年1月26日

本部長 稲川知法